

跡見学園女子大学 学報



「日常性の打破」「無からの創造」「はじめのいっぽ」「2595人の交響曲」「微熱の世代」「撫子見参」「紫花繚乱」「ゆかり浪漫」「Metamorphose」「Bloom～開花宣言」「凜～私らしさ」「Atomic Soul」「桜色革命」「アトミズム」「Re:Start～40回目の奇跡から」「Atomiracle」「青春桜歌」「桜花爛漫」「千紫万紅」等々。これらは歴代の実行委員会が考えに考えて付けた「紫(ゆかり)祭」のテーマですが、この短いセンテンスや単語から彼女たちの意気込みが伝わってきます。50回という折り返し地点にさしかかった今年のテーマは「花笑み」とのこと。どのような笑顔を咲かせてくれるのか、期待したいと思います。また、大学は、その笑顔のために全面バックアップをしてまいります。

記事内容

○2018年4月 心理学部臨床心理学科を設置します	○第50回紫祭「花笑み」	(2)
○跡見花躰記念奨学生表彰		(3)
○国際交流活動の紹介(夏期海外語学研修のご報告)		(4)
○CLUB NOW	○ゼミ紹介	(5)
○就職課の取り組み紹介		(6)
○「ATOMIインターンシップ」実施報告	○平成29年度アカデミック・インターンシップの実施報告	
○平成29年度基礎ゼミ学外実習の実施報告	○学生会情報	(7)
○平成29年度新規採択「科学研究費補助金にかかる研究内容の概要」		(8)
○地域交流活動のご報告ー 跡見生の地域での活動が益々盛んになりつつありますー		
○名誉教授のご紹介	○新任教職員紹介	(9)
○学生食堂リニューアルオープン	○メディア環境の整備で学習満足度UP!	
○学生の主体的な学びを促す授業方法の検討～第2回FD / SD研修会「ラーニングcommons「LALA」における新しい学びの可能性ー ID(インストラクショナル・デザイン)の授業実践ー」実施報告～		(10)
○平成29年度 大学入試日程		(11)
○行事予定	○大学バス ダイヤ改正	○訃報
	○資料館コレクション	○編集後記
		(12)

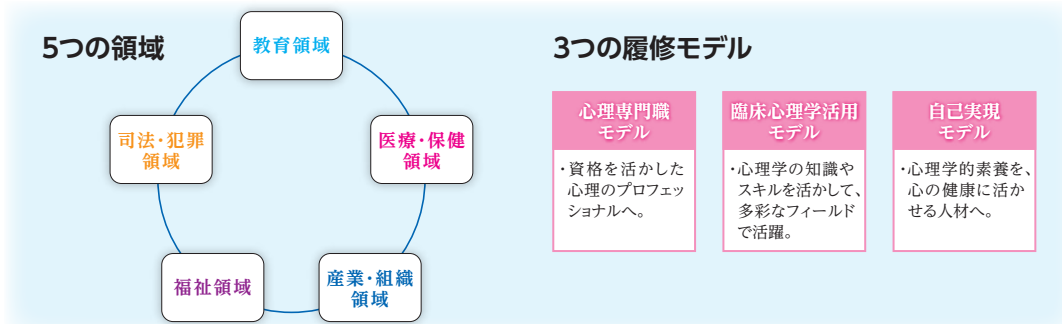
2018年4月 心理学部臨床心理学科を設置します

跡見学園女子大学は、2018年4月に4番目の学部「心理学部」を開設し、そこに現行の文学部臨床心理学科を抜本的に改組した新しい学科「臨床心理学科」を設置します。入学定員は現行と同じ120名とします。

臨床心理学の分野を文学部から独立させ単独の学部とするのは、(1)社会の変化に伴い、心の問題も複雑化・多様化し、それに対応した教育・研究が求められていること、(2)これに関連し2017年9月に公認心理師法が施行され、2018年4月から大学・大学院において新たな国家資格「公認心理師」の養成がスタートするため、これに対応したカリキュラムが必要とされていること、によります。

以上のような社会の要請に対応するため、新たに設置する心理学部臨床心理学科では、学びの領域を大幅に広げ、従来からの中心分野である教育領域に加え、医療・保健領域、福祉領域、司法・犯罪領域、産業・組織領域の5つの領域で求められる心理学を実践的に学べる教育課程とします。特に実習型の授業の充実を図り、実習時間の増加とともに、実習先は教育機関のみならず医療施設・福祉施設など5つの領域に対応した機関・施設を用意しています。

また、将来の進路選択に合わせた3つの履修モデル、すなわち「心理専門職モデル」「臨床心理学活用モデル」「自己実現モデル」を用意し、学生一人ひとりが自分に合ったキャリアに向けて学べるようにします。



なお、国家資格「公認心理師」の資格取得に関しては、現行の文学部臨床心理学科および大学院人文科学研究科臨床心理学専攻においても教育課程上の対応を行い、在学生（院生）が経過措置により将来受験資格が得られるようにします。

第50回 紫祭

花笑み

11/4(Sat)-11/5(Sun)

ごきげんよう！記念すべき第50回の紫祭です。今年のテーマは『花笑み』です。花が咲くこと、また咲いた花のように華やかな笑顔を意味します。

一人ひとりが華やかな笑顔を咲かせ、跡見生らしい紫祭に、またその姿を来場者の方々に見ていただき、全員が楽しみ笑顔になる紫祭にしたいという願いが込められています。

私たちは紫祭を成功させるために、各係が夏休みの間も大学に出てきて準備をしてきました。それぞれが自分たちに与えられた仕事をこなし、それらが一つになって初めて紫祭が成功します。過去に49回の紫祭が行われましたが、先輩方もこうして頑張ってきたことを思うと感慨深いものがあります。脈々と受け継がれてきた伝統があってこそ第50回の紫祭があるのだと実感するところです。



これまでに作成されたパンフレット

今年はフランクフルトやチュロス、お団子など食品を出店する団体が21団体、写真部や書道部などの展示団体が25団体で例年より多くの団体が参加します！

他にも見どころ満載ですので楽しみにしてください。

紫祭実行委員一同、みなさんのご来場をお待ちしております！

跡見花蹊記念奨学生表彰

平成29年6月23日(新座キャンパス)および平成29年6月27日(文京キャンパス)に学業奨励賞として跡見花蹊記念奨学生76名が表彰されました。

奨学生は前年度の学業成績上位者から選考され、表彰状と奨学金(授業料の1学期分相当額)が支給されました。

学部2年生

- 文学部人文学科
千合 奈々 大月 友乃 小池 あかり
高島 菜々美
- 文学部現代文化表現学科
小野 莉花 加藤 綾夏 見田 智絵里
- 文学部コミュニケーション文化学科
菊地 真央 松田 唯 寄川 菜都
- 文学部臨床心理学科
柏木 菜々子 菊池 美紀 菅 佳菜美
遊佐 千晶
- マネジメント学部マネジメント学科
青木 芹帆 尾澤 友里恵 中島 有咲
磯野 真衣 中島 里沙
- マネジメント学部生活環境マネジメント学科
大畑 詩帆 山崎 佳穂
- 観光コミュニティ学部観光デザイン学科
伊藤 早穂 梅津 佳世 篠崎 晴菜
三上 春加
- 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
廣田 夕夏

学部4年生

- 文学部人文学科
白石 由佳 東小川 真由 峯岸 彩佳
石垣 美沙 吉田 夏奈子
- 文学部現代文化表現学科
淵上 瞳 横田 浩香 船田 彩乃
- 文学部コミュニケーション文化学科
金子 菜瑠 川口 愛
- 文学部臨床心理学科
尾花 絢加 樺澤 麻美 松元 香乃
- マネジメント学部マネジメント学科
大山 紗帆 小林 加奈 高須 莉帆
高橋 有佳里 飛田 紗希 高橋 真由
- マネジメント学部観光マネジメント学科
砂田 満梨奈 関口 紗月 米山 綾那
- マネジメント学部生活環境マネジメント学科
丸山 芽衣

学部3年生

- 文学部人文学科
伊藤 舞星 篠原 章子 杉林 成美
野澤 涼子
- 文学部現代文化表現学科
大上 久美子 野本 真優 山口 瑠菜
- 文学部コミュニケーション文化学科
丹野 由香子 野口 晴代 古園 あかり
- 文学部臨床心理学科
内藤 安里紗 諸橋 尚子 渡邊 美樹
- マネジメント学部マネジメント学科
齊藤 梨沙 田崎 葉子 橋本 明香里
林 美穂 松岡 実弥
- マネジメント学部生活環境マネジメント学科
大越 優子 片淵 知帆子
- 観光コミュニティ学部観光デザイン学科
井本 芽衣 塩川 みのり 白井 麻莉
- 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科
永井 彩香

大学院2年生

- 人文科学研究科日本文化専攻
鈴木 ありさ
- 人文科学研究科臨床心理学専攻
関 知重美
- マネジメント研究科マネジメント専攻
土方 恵

跡見校友会一紫会大学院奨学生表彰

平成29年6月30日に学業奨励賞として4名の跡見校友会一紫会大学院奨学生が表彰されました。奨学生は前年度の学業成績上位者の中から決定し、表彰状と奨学金(授業料の一学期分の二分の一相当額)が支給されました。

大学院2年生

- 人文科学研究科臨床心理学専攻
会田 龍之介
- 人文科学研究科臨床心理学専攻
市川 実咲
- 人文科学研究科臨床心理学専攻
須藤 麻衣
- マネジメント研究科マネジメント専攻
田 巖



跡見花蹊記念奨学生(新座キャンパス)



跡見花蹊記念奨学生(文京キャンパス)



跡見校友会一紫会大学院奨学生

国際交流活動の紹介

平成29年度夏期海外研修終了報告

全学共通科目運営センター長 佐藤富雄

今年度の夏期海外研修は、英国・国立スターリング大学（8/6～9/5）、カナダ・ロイヤルローズ大学（8/21～9/18）、フランス・西部カトリック大学（8/7～9/5）にて実施されました。各大学での夏期研修にはそれぞれ特色があり、学生たちは各自の目的に合った研修に参加することが可能です。スターリング大学の研修の特色は、レベル別クラスでの質の高い授業に加え、イギリスの歴史や文化に触れることのできる課外活動が豊富な点にあります。ロイヤルローズ大学の研修には、英語学習のプログラムに加え、カナダにおけるツーリズムとホスピタリティを学ぶことのできるプログラムが用意されています。西部カトリック大学での研修は、世界各国からの留学生と切磋琢磨しながら、国際色豊かな環境のなかでフランス語を学ぶレベル別クラス編成となっています。

研修に参加した学生たちからは、集中的な外国語学習により語学力の向上を実感したとの声にとどまらず、街や人を通して異質な文化や社会に触れた経験に刺激を受け、今後に向けて新たな目標が生まれたとの声もよせられています。本学ではこれからも学生のニーズに応え、国際社会での活躍を目指す学生のサポートに尽力してまいります。

イギリス・スターリング大学での研修を終えて

観光コミュニティ学部観光デザイン学科 3年 関口采花

研修が始まるまではうまくやっていけるのかと不安でしたが、いざ始めてみると充実した日々で日本に帰りたくないという気持ちでいっぱいになりました。授業では、各地からきた学生と共に“Don't be shy”という言葉をお互いに積極的に英語で話すことを心がけました。授業後も他大学の学生達とパーティーをしたり買い物に行ったり楽しい時間を過ごしました。研修の最後には、名残惜しく涙が溢れるほどでした。短期研修ではありましたが、語学力の向上だけでなく、素晴らしい友人にも出会うことができ幸せな毎日を過ごせたことを、サポートしてくださった全ての方に感謝しています。



フランス・西部カトリック大学での研修を終えて

文学部人文学科 3年 村上枝里

私は大学1年生からフランス語を学び、3年生でこの研修に参加しました。初めの頃は、挨拶やお金の払い方など、様々なことに不安を覚えました。しかし、1ヶ月間フランスで生活をすると、日常の挨拶を自然にフランス語で交わせるようになっていたり、色々なお店に気軽に入れるようになり、毎日がとても楽しく充実していきました。授業も日を追うごとに分かる単語や聞き取れる言葉が増えていき、自分の学んできたフランス語をより実践的なものにするのができました。この研修を通じて語学だけではなく、自分から積極的に発信する重要性を学ぶことができました。この経験を今後の就職活動やその後の人生に活かしていきたいです。



カナダ・ロイヤルローズ大学での研修を終えて

文学部コミュニケーション文化学科 2年 高橋美結

カナダでの生活は見るもの全てが刺激的で、人との繋がりや言葉以外でのコミュニケーション、異文化を理解しながらの生活など、日本ではできない体験をすることができました。英語が上手く伝わらないときは、わからないながらも伝える努力をしようと意欲的になれました。さらに英語面だけでなく、生活をする様々な面においても、挑戦することを恐らなくなりました。授業では不安もありましたが、段々慣れてくると、英語で新しい知識を得ることがとても楽しくなり、もっと授業を理解しようと集中することで、さらに楽しくなってきました。今回の研修で得た知識や感情を無駄にしないように、これからも努力を怠らず、勉学に励みたいと思います。



スターリング大学との連携について

本学から英国国立スターリング大学へは、春期・夏期の研修を通じて既に373人の学生・生徒を派遣しています。また、同大学及び大学院への進学実績もあり、本学の協定先として非常に重要な役割を果たしています。現在、全学生を対象とした半年から1年間の語学または学部留学（中・長期留学）の実現に向けて、スターリング大学と協議を重ねています。



《跡見学園女子大学からスターリング大学への進学実績》

2005年～2016年実績

大学・英語コースへの留学	4名
大学院への進学	6名

問い合わせ先：事務局国際交流課

CLUB Now

ウィンドオーケストラ部

こんにちは。跡見学園女子大学ウィンドオーケストラ部です。私たちの活動について報告させていただきます。活動の中心は演奏会を行うことや、合同演奏会に参加することです。大学の学園祭である紫祭で30分程度のミニコンサートを開催しており、毎年多くの方々に聞いていただいています。昨年度末には17回目となる定期演奏会を行い、1年の成果を発表しました。また福祉施設において子供向けのクリスマスコンサートを開催することや、地域で開催される演奏会に参加することなど、学外での活動も積極的に行っています。今年度も多くの演奏会に参加し、私たちの奏でる音楽を聴いていただけるように頑張っていきたいと思っておりますので、応援よろしくお祈りいたします。



演奏会での集合写真

赤松ゼミ(住生活マネジメント)

マネジメント学部生活環境マネジメント学科 講師 赤松 瑞枝

本ゼミでは、身近な住生活の中から学生自らが課題を見つけ、文献研究・観察調査・アンケート調査などの実施と結果分析、考察を通して、解決策を提案できるように指導を行っています。2、3年生は実践的な課題を、4年生は卒業研究・卒業論文の執筆を通して、これらの力を養います。

2年生では、高齢者疑似体験から得た気付きを課題解決に生かすことを目的に、新座キャンパス構内図のバリアフリー版作成や、公共施設のバリアフリー度観察調査を行っています。3年生は、文京区主催の避難訓練への参加をきっかけに避難所の居住スペースの改良に取り組んだり、不動産広告の閲覧をきっかけに一人暮らし女子大生のための使いやすい住空間の提案に取り組んだりしています。

いずれの学年も、提案がある程度まとまったところで、建設不動産会社の方や、文京区防災課の方、地域居住者の方々の前でプレゼンテーションを行って様々なコメントを頂いています。これら頂戴したご意見を参考に、より現実的な提案になるよう試行錯誤を重ねていきます。苦勞もしますが、視野が広がり、様々な角度から物事を検討する重要性和楽しさを実感し、達成感や自信の獲得につながっているようです。

新座キャンパス バリアフリー構内図
／高齢者疑似体験

ゼミ紹介

岩田ゼミ(江戸時代の日本文学)

文学部人文学科 教授 岩田 秀行

ここ5年ほどは、絵入りの大衆小説「草双紙」を扱っています。コミックの原点に当たるようなものです。「ガラスの仮面」や「NARUTO」のように、江戸の後期草双紙は大長編となっていました。ほとんど平仮名で書かれている「草双紙」は、美しく精巧な挿絵とともに女性読者の大人気を博していたのでした。

当ゼミでは、<草双紙を原本で読めるようになる>ということを目指しています。毎週の授業に加え、卒業研究として60ページ程の草双紙を解説します。大体170回の通信添削が必要です。毎日1回として5ヶ月半ほど掛かる勘定です。しかし、これが終わる頃にはミミズのような字がずらずらと読めるようになります。

英語が通じたときのうれしさは如何ばかりでしょう。くずし字が読めるようになった時のうれしさもまた格別です。それは過去の日本人と交流ができたということです。そしてその先には、実は<現代を外側から見る視点>が用意されているはずなのです。



カラフルで楽しい江戸の草双紙

篠崎ゼミ(地域づくり研究・実践コミュニティデザイン)

観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 准教授 篠崎 健司

ゼミでは、研究に当たっての基礎的知識や方法論を学ぶとともに、コミュニティを幅広く捉え、地域住民どうしだけでなく、企業と地域、住民、行政の産学官民を連携させることによる地域の活性化や地域課題解決のあり方を検討しています。

学外実習では、子ども・子育て支援を行う団体と連携して地域のコミュニティスペース活用を企画し実際に運営を行ったり、新たな産業づくりが課題の地域では、学生がモニターとなって、地域産業や新たなアクティビティの評価・提案を行ったりするなど、実際に地域に入った取組を行っています。

現在は、ディベロッパー事業者やエネルギー供給事業者、また交通系企業等と地域をつなぐ仕組みづくりを提案し、地域活性化に繋がる活動を実際に行いながら、“人と人をつなぐ”とはどういうことかを1人ひとりが実践で学んでいます。

エアボード体験(アウトドア事業評価・提案):
ゼミ生ほか、北海道南富良野町にて

就職課の取り組み紹介 ～就職部 就職課～

I. 充実の「ATOMI就活サポーターズ」制度

目移りするほどスピード感のある現代社会に、学生を“社会人”として輩出するため、私共就職課は、全ての学生に手厚いサポートを心掛けて、ひとりひとりに寄り添いながらキャリア支援を行っています。その中でも今年で6年目となる「ATOMI就活サポーターズ」制度は、跡見就活生のキャリア支援に無くてはならない存在となりました。

この制度は、卒業生ならびに4年生内定者の皆さんにご登録頂き、就活生支援にご協力頂くもので、OGサポーターズは既に700名以上の卒業生のご登録があります。就活生に直接語りかける機会や、卒業生同士が懇親を深める場を提供するなど、今後も卒業生ネットワークを更に強固にするべく尽力してまいります。そして、4年生の内定者サポーターズの皆さんには、相談会でのアドバイスはもちろんのこと、ご自身の経験を元に、就活生の面接官役となって特訓をする場、「就活サポーターズによる面接練習会」を実施し、幅広く就活生の支援にご協力頂いております。就活生にとっては、つい最近まで就職活動をしていた先輩の経験が体現できる効果的なプログラムです。

このような活動の一環として、7月30日(日)実施のオープンキャンパス(於、文京キャンパス)では、「私に自信を」デー特別企画として、卒業生2名、在学学生として4年生内定者5名のサポーターズによるトークイベントを開催し、受験生、保護者の総勢80名を超える皆さまにご参加頂きました。卒業生からは社会人として学生生活時代のリアルと、現在に至るまでの成長をお話頂きました。就活を終えた4年生からは大学の学びがどのように自分自身の糧となり、就職活動に繋がったかを様々な視点から伝えて頂きました。跡見生が学びを通じて自信をつけていく様子をご参加頂いた受験生はもとより、保護者の方にも強く印象付けられたのではないのでしょうか。

このように、ATOMI就活サポーターズの皆さんの協力体制は、本学のキャリア支援の更なるクオリティ強化に繋がっており、今後も連携を深めながら様々なコンテンツを構築し発信してまいります。



7月30日実施のトークイベント



就活サポーターズによる面接練習会

II. 速報!この夏 跡見学園女子大学とホンダ開発株式会社による「PBLプロジェクト」実施

PBL(Project Based Learning)プロジェクトとは、学生が企業の課題を解決するために、グループで議論しながら限られた期間にアイデアをまとめ、具体的な提案(プレゼンテーション)を行う活動です。

今回、日経BP総研協力のもと、ホンダ開発株式会社の「従業員がワクワク、イキイキ働ける会社にしていくためにはどういった取り組みが必要でしょうか」という課題に、跡見学園女子大学の3年生23名が挑みました。

7月下旬の学生同士の顔合わせ会を経て、8月25日(金)、ホンダ開発株式会社本社(埼玉県和光市)に集合した学生23名は、緊張と期待の中、企業の担当者から業務内容や課題について説明を受け、今後のスケジュールを確認し、プロジェクトがスタートしました。

8月29日(火)、9月5日(火)、12日(火)の3日間、メンバー全員が大学に集合してチーム毎に内容のまとめ方からストーリー展開の仕方、資料の作成方法およびプレゼンテーションの基本を専門のファシリテーターから学ぶことで、どのチームも回を増すごとに活発な議論がなされました。またプレゼンテーションまでの1か月間に大学や自宅に集まり、資料の作成やプレゼンテーションの自主練習も積極的に行ったようです。

その集大成として、9月20日(水)ホンダ開発株式会社本社にて「成果発表会」が開催されました。各チームが企業の課題に対しそれぞれ独自の提案を行ったばかりでなく、趣向を凝らしたプレゼンテーションも印象的でした。

このPBLに参加することで、一歩前に踏み出すことを躊躇していた学生にとっては、大きな“自信”と、“伝える力”を身に付けることができ、積極的な学生にとっては、プレゼン力の向上はもちろん、企業で働くマインドや仕事の本質が理解できたことと思います。

学生一人一人が自己の成長を実感できるこのプログラムは、就業力を高め、ひいては学生のキャリア意識の醸成に大きく貢献しております。今後も、学生のキャリア支援にご期待ください。



グループ毎に活発な意見交換が繰り返された



最優秀賞チーム「20×ラーンズ」の4名



成果発表における真剣勝負のプレゼンテーション

最優秀賞チーム 「20×ラーンズ」

人文学科	3年	小関路貴
コミュニケーション文化学科	3年	寺坂美紀
生活環境マネジメント学科	3年	久保田咲恵
観光デザイン学科	3年	藤本侑里

「ATOMIインターンシップ」実施報告 ～就職部 就職課～

現在の就職活動において、もはや必要不可欠となりつつあるインターンシップ。今年、経団連の指針により、「5日間以上」としていたインターンシップの日数の規定が撤廃され、1日のみの開催もインターンシップとして認められることとなり、実施企業も増えています。学生にとっては、公募での参加がより身近となり、就職活動を控える3年生はもとより、1・2年生も気軽に参加できるようになっています。

そんな中で、本年度も実施された、「ATOMIインターンシップ」は、50社6自治体と多くの企業様にご協力頂き、各学部3年生と文学部の2年生総勢100名の学生が幅広い業界で就業体験を実施しました。

参加学生にとっては、これから社会に出る上での多くの“気づき”が得られたことでしょう。

引き続き、インターンシップも、多くの学生が参加し体験できるよう努力してまいります。



株式会社トータスでの
インターンシップの一場面

平成29年度 アカデミック・インターンシップの実施報告 マネジメント学部長 宮崎 正浩

マネジメント学部では、2年次の必修科目として夏休み期間中の2週間(実働10日間)、全員が企業や地方自治体などで就業体験を行う「アカデミック・インターンシップ」を実施しています。この目的は、授業で学ぶマネジメントに関する理論を発展させ、今後の学修の方向性を明確にするとともに、社会人としてのマインドとスキルの習得により実務能力を高めることです。

学部創設時から実施しているインターンシップは本年度で15年目を迎えました。約240名の学生が社会人マナー講座を受けた後、8月から順次インターンシップに参加しています(今年度の派遣先は合計113団体)。秋学期には、学生が大きく成長した姿で大学に戻ってくることを楽しみにしています。



平成29年度 基礎ゼミ学外実習の実施報告 観光コミュニティ学部長 小川 功

当学部では夏休みを利用して2年次必修の基礎ゼミナールの学外実習を例年通り実施しました。観光とコミュニティの両学科で多少の差はあれ、約10日間現地で多種多様な現場を実体験して、実践的なデザイン力の基礎を修得しようとする体験型プログラムです。派遣先は海外数カ国をはじめ、北は北海道から、南は九州・沖縄まで全国各地の観光とコミュニティの魅力ある現場(企業・自治体・NPO等)です。今夏の長雨・災害等の影響も軽微でほぼ計画通り進行中です。学生たちは初体験に戸惑いながらも、日常とは異なる環境・風土・景観等に刺激され、親切に接して頂いた現場や地元の方々との交流を通じて確実に成長しています。大学との包括地域連携協定を結んだ長野県での学外実習の例では、派遣先の山村地区の皆さんから大歓迎を受け、都会暮らしでは想像もできない様々な農村生活文化を堪能、地元新聞記者から取材も受けました。派遣先の素晴らしい景観や自然環境は当然ながら、地域コミュニティの大切さ、人々をつなぐ絆の大事さを十分学び取りました。



長野県での活動の様子

学生会情報

学生会本部 会長 原本 紗李

みなさん、ごきげんよう!さわやかな秋晴れの続く今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。今回は、6月14日に開催されました学生総会及び学長と語る会についてご報告致します。

学生総会では、平成27年度決算報告の訂正、平成28年度決算報告、平成29年度予算の審議を行い、すべて承認されました。学長と語る会では、山田学長先生をはじめ諸先生方にご出席いただきました。学生から寄せられた要望や質問に丁寧にご回答をいただきました。ご出席くださいました先生方、ご協力誠にありがとうございました。次年度以降もより良い会が開けるよう学生会本部一同努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。



学生総会の様子(文京キャンパスと 新座キャンパスを中継)

平成29年度新規採択「科学研究費補助金にかかる研究内容の概要」

研究課題名 「現代中国語における可能表現の学習効果—導入及び習得データに基づく実証分析」

文学部人文学科 准教授 安本 真弓

中国語の可能表現は動詞の前に助動詞を置くものと、動詞の後に補語を付けるものとに大別されます。前者は助動詞“能、会、可以”を代表として構成され、後者のタイプは多様を極め、さらに、場面や文脈等に応じて異なる表現を選んで可能の意味を表現しています。例えば、「私は泳げる」は通常助動詞の“会”を使うものの、「私は800m泳げる」では“能”を用います。一方で、「おなかいっぱい食べられない」は補語の可能表現を使うようです。故に、日本語の可能表現は中国語の可能表現に比べ、細かい言いわけがない(金田一

春彦1957)との指摘がなされており、日本語母語話者にとって中国語可能表現の習得は難点であるとの共通認識があります。

以上を踏まえ、本研究は、現在日本の教育機関(おもに大学)で採用されている各種中国語教科書で扱われる可能表現に関する導入事例を手がかりに、日本語母語話者が効果的に学習できる導入手法を解明するとともに、中国語可能表現の習得において母語となる日本語が如何なるメカニズムで干渉しているかなど、第二言語習得の指導向上に寄与しうる知見を得ることができそうです。

研究課題名 「臨床心理士による自然災害時の被災者・避難者団体に対するアウトリーチ支援の検討」

文学部臨床心理学科 講師 新井 雅

震災、台風、豪雨、火山噴火等の自然災害に伴う被災者・避難者の心のケアにおいて、地域コミュニティのつながりの維持・回復・再構築が重要とされており(内閣府、2012)、臨床心理士等の心理専門職にとっても、被災者・避難者のつながりやコミュニティを意識した心理支援が強く求められています。具体的な実践例として、東京臨床心理士会では、平成24年に「3.11震災支援プロジェクト」が発足し、当事者団体によって運営される在京避難者の集いの場である交流会の支援(アウトリーチ活動)が継続されてきました。そして、本活動に携わってきた臨床心理士と共に研究グループを立ち上げる

と共に、私達は平成26、27年度に日本心理臨床学会研究助成を受け、このアウトリーチ活動における心理支援の有効性や課題を調査・検討してきました。

本研究は、上述の実践・研究実績を進展させ、様々な自然災害に伴う被災者・避難者への心理支援の中でも、特にアウトリーチによる交流会等での団体支援で求められる臨床心理士の役割や専門性、実践知について量的調査やフィールドワークを通して明らかにしながら、包括的な支援モデルの構築と心理職を対象とした研修プログラムの開発につなげたいと考えています。

研究課題名 「軽躁チェックリスト他者評価版を用いた効果的な双極性障害のスクリーニング法の開発」

文学部臨床心理学科 准教授 酒井 佳永

双極性障害とは、気分が高揚する「躁状態」と、気分が落ち込む「うつ状態」とが繰り返される精神疾患です。双極性障害の患者さんは「うつ状態」で病院を受診することが多いため、しばしば躁症状のないうつ病性障害と誤診されてしまいます。そして双極性障害とうつ病性障害では、標準的な治療の方法が異なっており、双極性障害の患者さんとうつ病性障害の薬を投与すると、躁状態が誘発されるなどして、症状がかえって悪くなってしまうことがあります。そのためうつ状態で受診した患者さんがうつ病性障害なのか、双極性障害なのかをみわけの方法を開発することが、とても重

要な課題となっています。

今回、採択された研究課題は、患者さん本人、そして同居する患者さんのご家族が、患者さんの普段の行動や活力について回答することにより、患者さんの双極性障害の傾向を把握できる「軽躁チェックリスト本人版・他者評価版」の日本語版を作成すること、そしてこれらの尺度を利用して、うつ病性障害と双極性障害をみわけ効果的な方法を開発することを目的としています。全国の5つの病院に協力していただき、研究をすすめています。

研究課題名 「同一価値労働同一賃金原則に基づく新たな賃金制度と法の研究—男女賃金格差の解消へ—」

マネジメント学部マネジメント学科 准教授 禿 あや美

日本では男女間および雇用形態間の賃金格差が非常に大きく、格差・貧困問題が深刻化しています。この研究ではそうした日本の課題に応えるべく、2つのプロジェクト研究を行います。1)ILO100号条約に基づく職務評価を複数の企業の協力の下で行います。さらに公正な賃金制度の提案を行い、その普及・拡大に今後つなげていきたいと思えます。2)国際的に見てその取り組みが先進的なカナダ・オンタリオ州の法と企業の人事制度の有機的関連性をインタビュー調査および理論研究を通じて明らかにし、日本への示唆を得

ることです。現政権も、「働き方改革」の中心課題として「同一労働同一賃金」を推進しようとしています。現状を変える実効性のあるものとはなっていません。その背景には、日本では労働者の属性を評価対象とする賃金決定制度を採用し、職務の評価に基づく賃金・人事制度に消極的であることが挙げられます。本研究ではそうした現状を変えるために必要なことは何か、社会政策および労働法の分野からの多面的アプローチを行い、明らかにします。

研究課題名 「現代社会におけるツーリズムモビリティの新展開と地域」

観光コミュニティ学部観光デザイン学科 教授 須藤 廣

本研究は、観光学における「移動論的転回」を様々な視点から検証してゆくものです。「移動論的転回」とはイメージや人やものが移動することによって起こる従来の文化の破壊と創造に焦点を当てる動的研究の方法です。移動論的転回が必要となってきた理由は3つあります。第一に、1990年代以降におけるグローバル化によって生まれた国境なき文化の広がりであり、第二に、Web2.0以降における情報技術の発展です。情報技術の発展による文化の移動は観光文化のイメージ化、メディア化を促進します。第三にポストフォーディズム消費形態の深化による、文化の商品化の進展(資本主義フロンティアの内部化)です。観光文化は国際化、情報化(メディア化)、商品化の

度合いを深めて行き、その結果として経済現象の最前線に躍り出ることになり、現在「産業」として注目を浴びています。

以上上げた三つの視点のなかでも、私の担当は、三つ目の視点によって浮かび上がる諸領域です。特に、以前においては「観光」と直接結びつくことがなかった文化、アートや音楽等の芸術文化と観光の結合、そのなかでも、「サブカルチャー」と観光が合体した形態は観光の新展開の最前線となっています。サブカルチャーが作り出す観光文化は、観光者の「参加」なしではあり得ません。私は特に観光者の観光文化づくりへの参加に注目しつつ、この新しい観光文化が現代社会におけるどのようなつながり、連帯を創出してゆくのかを検証します。

学生食堂リニューアルオープン

7月より学生食堂がリニューアルオープンしました。オープン当初期間限定のスイーツを特別価格で提供するなどの効果もあり連日多くの学生、教職員でにぎわいました。今後も、月ごとの行事食など、季節感のある食事の提供ができればと考えています。メニュー内容についても日々検証、検討して、女子大学ならではの嗜好と健康に考慮したメニューの提供を目指します。また、皆様の声を直接聞くための「ご意見箱」を新座・文京の学生食堂入り口に設けました。忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います。

学生食堂が、単に「食事」を提供する場所にとどまらず、「食育」の観点からも今日の食事が明日の自分の身体を作るということを意識できるような在り方が大切であると考えています。

今般、ファーストフード店の増加や添加物の多いインスタント食品の氾濫、ライフスタイルの変化により、生活習慣病の低年齢化が進んでいるといわれています。

「食」とは何か、「食」の安心安全、健康を考えた栄養バランスに優れた食事がいかに大切であるかを考えるきっかけの場であり、そして学生が集えるコミュニケーションの場所のひとつとして魅力ある学生食堂となるよう努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



メディア環境の整備で学習満足度 **アップ** UP↑

今夏、新座図書館、文京キャンパス2号館教室のネットワークリプレイスを実施し、より一層の学習環境の充実を図りました

新座図書館では、館内のどこからでも文献検索ができるよう、OPAC専用端末をデスクトップPCからタブレット端末へと変更し、OPAC端末は学習用PCとして、閲覧席へ移設しました。自主学習、授業、学校行事等、さまざまな場面で活用されているラーニングコモンズ「LALA」には、ノートPC、電子黒板等を増設しました。「仲間集まって話し合いや学習がしたい」「発表、プレゼンがしたい」など知識のインプット・アウトプットの場として大いに活用してください。このほか、視聴覚コーナーの機器も一新しています。

文京キャンパス2号館教室ですが、平成20年の開設時に設置したアナログAV機器をデジタル機器へと入れ替えました。これにより、投影画面はより明るく、鮮明になりました。

学園全体としては、ネットワーク機器の入替を行いました。これにより、安定したインターネット環境を提供できるとともに、SPAMメールや攻撃型ウイルス等への対策も強化しました。



学生の主体的な<学び>を促す授業方法の検討

～第2回FD/SD研修会「ラーニングコモンズ「LALA」における新しい学びの可能性— ID (インストラクショナル・デザイン) の授業実践 —」実施報告～

図書館長 兼 情報メディアセンター長 植松貞夫

大学生が主体的に学ぶことの必要性が提唱されて久しく、文部科学省も学士課程教育の「質」の向上を目的として、課題解決型の能動的学修である「アクティブラーニング」導入を推奨しています。またそのツールとして、図書館などにラーニングコモンズを設置し、電子機器等を配備することが全国の大学で進んでいます。果たして実際の学生の学修はどのように向上しているのでしょうか。

学生に主体的な学びを促す授業は、どうあるべきか?こうした問いからラーニングコモンズを設置する図書館、情報環境を提供する情報メディアセンター、それに全学教育・研究支援委員会が共催して、昨年度FD/SDワークショップを開催しました。講師に早稲田大学人間科学学術院教授で、ID(インストラクショナル・デザイン)を専門とする向後千春氏をお迎えして、インストラクショナル・デザインのお立場から講義いただきました。

この研修会は参加教職員の多くに好評で、次は実際の授業を見学する中から、深めていきたいとする意見があることから、再び向後氏にお願いし、本学の学生9名に対し、「統計学入門」のモデル授業を実施いただき、その後、授業デザインに関し、教職員向けに講義いただきました。

モデル授業は、「ガニエの9教授事象」の通り、「1、注意を引く」ことから始め、「2、目標を知らせる」と続き、フィードバック、評価、保持と転移など9つのプロセスに従って学生の興味を喚起し、学生自身の問題として授業課題を深め主体的に考えることを促す方法が実践的に示されました。特に強調されたのは、学修者の興味を引き(注意 Attention)、学修課題と学修者の関連性を示した上(関連性 Relevance)で、やればできそうだという自信を持たせ(自信 Confidence)、さらにやってよかったという満足を持たせる(満足 Satisfaction)動機づけのプロセスです。(「ARCS動機づけモデル」)

この動機づけだけで1年間の最初の一時限を費やしてもよい、というコメントが印象的でした。このように動機づけをしたうえで、考える課題を出し、グループワークをさせるなど多様な切り口を次々に示し、1つのプロセスが10分程度と長くないことが授業の緊張感を維持するという指摘もありました。

このセミナーはFDであるとともにSDであり、学生と接する機会が多い職員がどのように学生に向けて情報を提供できるか、学ぶ機会ともなりました。

平成30年度 入学試験日程

入試 TOPICS

- ◆AO入試を「AO入試(一般型)」「AO入試(英検型)」「AO入試(講義型)」の3種類実施いたします。
- ◆1月22日の一般入試A方式は、文京キャンパスの他、6つの学外会場でも受験可能です。
(仙台、新潟、水戸、宇都宮、高崎、千葉)
- ◆一般入試A方式とセンター試験利用入試I～Ⅲ期でお得な併願割を導入します。
(詳細は入学試験要項をご覧ください。)
- ◆大学入試センター試験利用入試は、すべての出願期間において、合否判定に高得点の2教科2科目を使用致します。
(心理学部臨床心理学科は、大学入試センター試験利用入試は、実施致しません。)

入試日程

【大学】※詳細は平成30年度入学試験要項にて確認してください。

入試方式		出願方法	出願期間(締切日消印有効)		試験日	試験科目・選抜方法	合格発表日
推薦入試	公募推薦入試	11月期	郵送のみ	平成29年10月25日(水)～11月2日(木)	平成29年11月11日(土)	書類審査、面接	平成29年11月16日(木)
		12月期	郵送のみ	平成29年11月27日(月)～12月4日(月)	平成29年12月10日(日)		平成29年12月14日(木)
		3月期 A日程	郵送	平成30年2月13日(火)～2月26日(月)	平成30年3月3日(土)		平成30年3月6日(火)
			窓口	平成30年2月27日(火)・2月28日(水)			
	3月期 B日程	郵送	平成30年2月19日(月)～3月7日(水)	平成30年3月13日(火)	平成30年3月15日(木)		
窓口		平成30年3月8日(木)・3月9日(金)					
跡見校女子推薦入試	郵送のみ	平成29年10月25日(水)～11月2日(木)	平成29年11月11日(土)	書類審査、面接	平成29年11月16日(木)		
AO入試	AO入試(一般型)	11月期	郵送のみ	平成29年10月30日(月)～11月7日(火)	出願後、面接・試験はありません。	課題レポート*、面接	平成29年11月16日(木)
	AO入試(英検型)	12月期	郵送のみ	平成29年11月27日(月)～12月5日(火)			平成29年12月14日(木)
	AO入試(講義型)	郵送のみ	平成29年11月27日(月)～12月4日(月)	平成29年12月10日(日)	レポート、面接	平成29年12月14日(木)	
一般入試	A方式	郵送	平成30年1月4日(木)～1月12日(金)	平成30年1月21日(日) 平成30年1月22日(月)	国語、英語、地歴・公民、数学から2教科にわたり2科目	平成30年1月25日(木)	
		窓口	平成30年1月15日(月)				
	B方式	B1方式	郵送	平成30年1月9日(火)～1月29日(月)	平成30年2月4日(日)	国語および英語、2科目	平成30年2月8日(木)
			窓口	平成30年1月31日(水)			
		B2方式	郵送	平成30年1月29日(月)～2月15日(木)	平成30年2月21日(水)		平成30年2月24日(土)
			窓口	平成30年2月16日(金)			
	C方式	郵送	平成30年2月13日(火)～2月26日(月)	平成30年3月3日(土)	国語・英語の内から1科目選択	平成30年3月6日(火)	
		窓口	平成30年2月27日(火)・2月28日(水)				
	大学入試センター試験利用入試	I期	郵送	平成30年1月4日(木)～1月31日(水)	大学入試センター試験 平成30年1月13日(土) 平成30年1月14日(日)	2教科2科目を合否判定に使用	平成30年2月8日(木)
			窓口	平成30年2月2日(金)			
II期		郵送	平成30年1月29日(月)～2月16日(金)	平成30年2月24日(土)			
		窓口	平成30年2月19日(月)				
III期		郵送	平成30年2月19日(月)～3月7日(水)	平成30年3月15日(木)			
		窓口	平成30年3月8日(木)・3月9日(金)				
特別選抜入試	帰国生 社会人入試	郵送のみ	平成29年10月25日(水)～11月2日(木)	平成29年11月11日(土)	面接	平成29年11月16日(木)	

※ 英検型は不要 ・ 窓口の受付時間は 10:00 ～ 16:00

【大学院】※詳細は平成30年度大学院入学試験要項にて確認してください。

入試方式	出願方法	出願期間 郵送(締切日消印有効)	試験日	試験科目・選抜方法	合格発表日
一般・社会人 [後期試験]	郵送のみ	平成30年1月25日(木)～2月5日(月)	平成30年2月10日(土)	平成30年度入学試験要項にて確認してください。	平成30年2月14日(水)

◆ 行事予定 ◆

10月	2日(月)	秋学期通常授業開始
	2日(月)~5日(木)	秋学期1次履修登録申請期間
	9日(月)、10日(火)	秋学期2次履修登録申請期間
	9日(月)	通常授業実施日
	13日(金)~14日(土)	履修登録訂正期間(窓口受付)
11月	3日(金)	紫祭準備日
	4日(土)~5日(日)	紫祭
	6日(月)	紫祭後片付日
	23日(木)	通常授業実施日
12月	13日(水)~20日(水)	卒論提出期間
	23日(土)	通常授業実施日
	26日(火)~1月5日(金)	冬季休業
1月	6日(土)	通常授業開始
	8日(月)	創立記念日(休講)
	13日(土)~14日(日)	大学入試センター試験(休講)
	22日(月)	入試(休講)
	23日(火)~29日(月)	授業評価期間
	29日(月)	通常授業終了
	30日(火)~5日(月)	秋学期定期試験期間
2月	6日(火)~7日(水)	秋学期定期試験予備日・追試験日
	8日(木)~28日(水)	補講期間(集中講義等有)
3月	1日(木)~31日(土)	春季休業(集中講義等有)
	3日(土)	卒業発表
	10日(土)	進級発表
	18日(日)	卒業式

大学バス ダイヤ改正 (8月1日付)

大学バスでの混雑の緩和のため、8月1日より、大学バスのダイヤを改正いたしました。

具体的には、志木駅経由の大学バスの運行を減らし、その分、混雑している新座発着のバスを1日あたり約10本(通常の授業期間)増やすというものです。学長と語る会では出されていた要望に応える形で実施となりました。

本数は増えますが、道路工事や事故等による交通渋滞による混雑もあり得ます。今まで同様、「時間に余裕をもって」、「乗車マナーを守って」大学バスを利用しましょう。

訃報

学校法人 跡見学園の顧問で、前理事長、^{あとみすみひろ}跡見純弘先生は、去る平成29年7月12日(水)にご逝去されました。(享年 95)

ここに謹んでお悔やみ申し上げるとともに、ご冥福を心からお祈りいたします。

なお、学園主催の「跡見純弘先生 お別れの会」は9月24日(日)に文京キャンパスの跡見学園大アリーナにて行われました。

資料館コレクション

《習作:かぜ》

海老原喜之助

(昭和29 [1954] 年、水彩) 右下に署名・年記 Ebihara 54

海老原喜之助は鹿児島出身の画家。大正12(1923)年、19歳でパリに渡り藤田嗣治に師事し、同地のサロン・ドートンヌに入選するなどの活躍を見せていました。しかし、折からの世界的な恐慌の余波を受け、昭和8(1933)年、日本に戻る藤田の後を追うように帰国します。昭和20(1945)年、終戦を迎えると東京から熊本に疎開。いわゆる九州時代(1945-1960)の幕開けです。花蹊記念資料館収蔵の《習作:かぜ》は、戦後の記念碑的作品のいくつかが生まれたこの時期の水彩です。



終戦後しばらくの間、制作の停滞に陥っていたことを画家自らが語る文章があります。——「終戦直後、私はここ[熊本・人吉]で身体をかばい、心のホコロピの前に立たされた。意地の悪い醜い魂のまま、白い紙を目の前にしなくてはならなかった。終日座して運ぶ鉛筆は重いものであった。四、五年の歳月が過ぎて、紙は裏表とも手あかですよごれて行くにつれ、狂っていた画調は幾分整ってきた(後略)。」(昭和29年12月)

こうした言葉に照らせば、昭和29年、ようやく復調の兆しが見え始めた画家海老原の手がけた作品の一つが《習作:かぜ》ということになるでしょう。じつは同年5月の第一回現代美術展(毎日新聞社主催、東京都美術館)に出品された《かぜ》と題する大作があります(静岡県立美術館収蔵)。風を受け襦袢布をなびかせて立つ三人の人物の一人(右端)に類似しているのが《習作:かぜ》の人物にほかなりません。

吹きつける風に抗うように立つ人物には、困難な状況に立ち向かおうとする戦後日本の復興期の人々の姿が暗示されていると同時に、その後の旺盛な制作活動を予感させる画家自身が投影されているかのようです。じっさい、海老原喜之助は、同年、第5回日本国際美術展最優秀賞を受賞、翌年には第1回毎日芸術賞を授与されています。《習作:かぜ》は、海老原の転機を画する作品ということになるかもしれません。

(花蹊記念資料館館長 村田 宏)

● 編集後記 ●

学報92号は、春学期の活動報告を中心にお届けしています。大学全体も少しずつ変化しています。

季節は春から夏、そして10月になり、キャンパスにも再び活気が戻ってきました。秋は、「芸術の秋」、「読書の秋」、「勉学の秋」、「食欲の秋」、「行楽の秋」などなど、実りある充実した季節です。何事にも全力投球でまいりましょう!